



発行日：令和2年7月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第55回山部会WGを開催しました！

7月3日(金)に第55回山部会WGを新型コロナウイルス予防対策を徹底した上で岡崎市にて開催しました。今回は山部会の活動進捗報告と活動目標の確認を行い、流域圏担い手づくり事例集(10年誌編集委員会)、山村ミーティング、森づくりガイドライン、木づかいガイドラインのテーマについて情報共有と意見交換を行いました。懇談会設立以来初のオンライン参加者を交えたWGとなりました。

日時：令和2年7月3日(金) 13:30~17:10
場所：岡崎市額田センター「こもればかん」
参加者：32名(内オンライン参加4名) ※事務局を含む



◆主な会議内容

1. 流域圏担い手づくり事例集(10年誌編集委員会)の取り組みと活動計画について

今年8月に流域圏懇談会は設立10周年を迎えます。そのため、昨年度は事例集づくりをお休みして、10年誌づくりのための編集委員会を7回実施し、2月の全体会議で「矢作川流域圏懇談会10年誌パイロット版」を配布しました。今年度は、これまで事例集や団体取材・キーパーソンヒアリングで得られた情報を整理し、完成版の10年誌づくりを中心に活動を進めていきます。10年誌は6つの章で構成し、年内発行を目指します。そのため、以下の活動を行います。

- ・ 10年誌作成のための編集委員会を実施する。 ・ 流域圏懇談会10年誌座談会を実施し、その結果を掲載する。
- ・ 既に実施したキーパーソンヒアリングの結果を整理し、掲載する。
- ・ 102団体の取材結果から、活動を視覚的にわかりやすい形で整理し、紹介する。

2. 矢作川流域山村ミーティングについて

山村に憧れ、山仕事に意義を見出している人たちが相互交流できる場として、山村ミーティングの役割があると考えています。昨年度は、林業技術者・技能者の横の連携を図る取り組みとして「矢作川流域林業担い手100人ヒヤリング」を実施し、その結果を報告しました。また、林業技術者・技能者が集まれる場として「矢作川感謝祭」に参加しました。今年度は、森づくりガイドライン、木づかいガイドラインとのつながりを重視し、林業の担い手が集まるミーティングを実施しながら、現場の生の声を聞いていく、ガイドラインづくりに参画できる体制を構築していきます。併せて、次年度以降の矢作川感謝祭の活用を検討していきます。

3. 矢作川流域森づくりガイドラインについて

山村ミーティングとの融合を勘案し、今年度の森づくりガイドラインの活動目標を大幅に書き換えました。矢作川流域の森を守っているのは、林業技術者・技能者などプロの人たち。そのプロの人たちが、地域に誇れる仕事をしているという自負をもてる指針となるのが、ガイドラインと考えます。同時に、河川管理者、沿岸漁業者、流域住民がプロの仕事を理解し、リスペクトして応援するような形に流域全体をもっていきたい。そのようなメッセージを伝えるガイドラインづくりを進めていきます。

また、自由な視点で森づくりに取り組めるよう、フリースタイル林業の考え方をガイドラインに盛り込みます。

4. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

昨年度は、木の魅力と楽しさを伝えることを目的に、52回の木づかいライブ・スギダラキャラバンを実施しました。特に重視しているのは、子供たちとそのファミリーを対象とした木による「原体験」の場、みんなが喜ぶ場面を作ることです。また、根羽村森林組合では、フォレストガーデン構想を展開しており、広葉樹を活かした景観整備、木製品を活用した森林空間づくり、間伐材を利用した「木糸」の利用などの事業を推進しています。

今年度も、木づかいガイドライン作成に向けた以下の取り組みを行っていきます。

- ・ 流域内で実践されている木づかい取り組み事例の収集
- ・ 「矢作川流域ものさし・私の流域物語」の推進
- ・ 矢作川流域圏懇談会の取り組みを全国の流域関係者に発信
- ・ 「木づかいライブ スギダラキャラバン(木育キャラバン)」の実施



5. 話題提供

- ①「岡崎市森林整備ビジョンの見直し」について(岡崎市経済振興部森林課)：岡崎市では平成22年度に策定した岡崎市森林整備ビジョンについて、森づくり協議会を設置し、ビジョンの点検、評価、見直しを行っています。
- ②「額田地域の森づくりに関して」(岡崎森林組合)：額田地域では、令和元年度に岡崎市雨山町轟地内、令和2年度に岡崎市東河原町滝沢地内で森林整備を行っています。翌日のフィールドワーク予定地でしたが、悪天候のため中止しました。

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●流域圏担い手づくり事例集 (10年誌編集委員会の取り組み)

- ・10年誌を通じて自発的、有機的な関係を構築していくというのは、懇談会の原点と思う。(今村)
- ・「こういう人がいて、こういう活動がある」などが分かる、目次のようなところがあるとありがたい。(今村)
 - ▶ なかなか難しいかもしれないが、編集委員会で検討していく。(洲崎)
 - ▶ キーパーソンへのヒアリング対象者は、レポートの提出をお願いする。流域圏懇談会の歩みを共有できるようなものを作りたいと思う。(洲崎)

●矢作川流域圏山村ミーティング

- ・山村ミーティングと同じようなことを「とよた森林学校」でしてもらった。森林ガイドラインと融合させていくというのがカギと思う。(山本)
 - ▶ 研究者、現場の技術者、行政も入り、流域圏の3県(長野・岐阜・愛知)のそれぞれの人が、境界を越えて本音で話し合うことができれば、未来を照らす森づくりのガイドラインができていくと思う。(丹羽)
- ・今年度の目標に向かって何をやっていくかについては、これから検討していく必要がある。いきなり集まるというステップではなく、前段階があると思うので、これからみなさんで考えていかなければならない。(蔵治)

●矢作川流域圏森づくりガイドライン

- ・県ガイドラインに現場の声を反映させる機会として、パブリックコメントの場面がある。県ガイドラインというのは、基本線であって、応用があってもよい。(生田)
- ・県ガイドラインというのは、絶対ではない。(小島)
 - ▶ 林野庁が作った国レベルのガイドラインについても、最初にそれを現場でやっている人に見てもらって、現場のイメージと比べてどうかという話し合いをやるべきかと思う。(蔵治)
 - ▶ 森づくりガイドラインとしては、いきなり4つの組合が集まるというよりも、どこかの森林組合と協議の場を設定し、話をすることが必要と思う。(蔵治)
- ・フリースタイル林業など新たな森づくりの取り組みなどを、追っかけのような形でやってみるのもよいかと思う。(今村)

●矢作川流域圏木づかいガイドライン

- ・木系について、詳しく教えてほしい。(洲崎)
 - ▶ 徳島県上勝町にある会社で木系の製品を作っている。木系は間伐材からチップを作り、それを紙にして糸を作る。糸ができれば、色々なパターンの布ができる。まず、木系で作る製品を決めて普及していくなど。また、チップについては、木質バイオマス発電でオフアークがきている。知多市にチップを使った発電施設がある。(今村)
- ・今年度のスギダラ キャラバンの状況はどうか。(蔵治)
 - ▶ 根羽村森林組合では、小学校から大学まで、学校との連携活動を行っている。3月に岐阜女子大学の学生による木材を使った家具製作実習を行った。愛知教育大学と木育関係での取り組みも進めている。その他、健康や憩いの空間づくりなど、新しい形の取り組みを進めたいと思っている。(今村)

●岡崎市森林整備ビジョンの見直し

- ・岡崎市森林整備ビジョンの施策体系であげられている項目の金額的な評価は行われているか。(浅田)
 - ▶ 金額的な評価は行っていないが、目標値に対する評価は、森づくり協議会の中で検討している。(坂板)
- ・「育てよう! 明日の林業家プロジェクト」のイメージはどうか。(今村)
 - ▶ プランナー育成は、目標値を設定して進めている。働き手の満足感を満たし、安全・安心を確保しながら、森林の仕事に誇りをもって、働いていただけるようにしていきたい。(坂板)
- ・森林環境税、水道水源税など、国の制度との関係はどうか。(沖)
 - ▶ 森林環境贈与税の仕組みで回りはじめている段階。森林整備は、森林経営管理法の中で進められている。(坂板)
 - ▶ 愛知県の場合、愛知県森と緑づくり事業の税がある。加えて今回の国の制度での税もある。市民にとって、「水の恵みをいただいている対価として支払っている」というのが、分かりやすいと思う。(蔵治)



今後のスケジュール (予定)

次回の山部会WG・フィールドワークは、8月28日(金)・29日(土)根羽村にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100 技官 中村

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@iijnet.or.jp)までお送りください。

